

令和6年度(戦後79年)

習志野市平和市民代表団
広島派遣報告書

未来へ平和を語り継ぐ” 28



習志野市

**広島派遣についての報告は
30ページからご覧ください。**

目 次

核兵器廃絶平和都市宣言と習志野市の平和活動推進事業	1
令和6年度習志野市平和市民代表団名簿	2
令和6年度習志野市平和市民代表団活動の記録	3
—事前学習会—	6
—写真で綴る 広島訪問—	
8月5日	30
8月6日	35
8月7日	39
広島インタビューレポート等	40
八幡照子さんによる被爆体験講話	50
—広島派遣を終えて—	
広島派遣の感想	
団長 齋藤路子 *命があればどんな苦しいことも乗り越えられる	56
団員 田中柊輔 *伝え、継承すること	57
団員 平川智規 *派遣を終えて	58
団員 田中ちより *派遣を終えて	59
団員 各務紘斗 *派遣を終えて	59
団員 伴悠羽 *派遣を終えて	60
団員 宮下寛司 *広島派遣を受けて	60
団員 近藤駿介 *想いを繋ぐ	61
団員 小菅茉弥 *派遣を終えて	61
団員 木堂亜衣理 *派遣を終えて	62
団員 中村由佳 *派遣を終えて	62
平和な未来をつくるために、私たちはなにができるのか？	63
平和市民代表団による報告会	64
—広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式 資料—	
広島平和宣言	67
平和への誓い	69
—参考資料—	
習志野市原爆死没者慰霊および平和祈念式典	71
習志野市平和市民代表団 OB、OG によるスピーチ、詩の朗読文	72
習志野市平和市民代表団 OB、OG の活動	76
習志野市平和事業のあゆみ	78

核兵器廃絶平和都市宣言と習志野市の平和活動推進事業

平和は市民の安全な生活の基本であり、市民一人ひとりに支えられて実現するものとの認識に立ち、習志野市は、昭和57年8月5日、県内で初めて「核兵器廃絶平和都市」を宣言しました。

戦後50年の平成7年には、永遠に平和事業が引き継がれるような財産基盤となる平和基金を設置し、広島市・長崎市平和式典への市民派遣事業を開始しました。

また、毎年8月6日と9日の広島・長崎原爆の日には、新習志野公民館並びに秋津公園内「平和の広場」で平和祈念式典及び献花を行い、原爆犠牲者を追悼し、再び地上にその惨禍が繰り返されることのないよう、平和の実現を願っています。

核兵器廃絶平和都市宣言

わたくしたち習志野市民は、文教住宅都市憲章を定め、生存と安全をまちづくりの基本とした。

わたくしたち習志野市民は、我が国が世界唯一の核被爆国として被爆の恐ろしさと、被爆者の苦しみを全世界の人々に訴え続けるとともに、再び地球上に広島、長崎の、あの惨禍が繰り返されることのないよう、恒久平和を強く願うものである。

わたくしたち習志野市民は、非核三原則の完全実施を願い、平和を愛する世界の人々と共に、恒久平和を実現することを決意し、核兵器廃絶平和都市をここに宣言する。

昭和57年8月5日 宣言

◆ 習志野市平和市民代表団 広島市・長崎市平和式典派遣事業について

事業の目的

戦争を知らない若い世代が、広島市・長崎市平和式典への参列や、原爆資料館等被爆関連施設の見学を通じて、戦争の悲惨さ、核兵器の恐ろしさ、平和の尊さを知り、派遣体験を活かして次世代への継承・平和啓発に貢献してもらうことを目的とする。

団員の選出

中学生	7名
高校生	2名
中学校教諭	1名
習志野市原爆被爆者の会会員	1名
計	11名

中学生・中学校教諭は市立中学校から、高校生は市内高等学校から、各学校長・教育委員会等より推薦を得て決定する。
また、団員の他、市職員が1名同行する。

団員の任務

- ・結団式、事前学習会、報告会等に参加
- ・広島市・長崎市で開催される平和式典へ参列
- ・派遣終了後、感想や記録等をまとめ、報告書を作成
- ・学校、家庭、地域等において自らの経験を伝承
- ・習志野市平和基金募金活動への協力

令和6年度習志野市平和市民代表団名簿

団 長	さい とう 齋 藤	みち こと 路 子	(習志野市原爆被爆者の会・会員)
団 員	た なか 田 中	しゅう すけ 柗 輔	(習志野市立第四中学校・教諭)
団 員	ひら かわ 平 川	とも き 智 規	(習志野市立第一中学校・第3学年)
団 員	た なか 田 中	ちより	(習志野市立第二中学校・第3学年)
団 員	か がみ 各 務	ひろ と 紘 斗	(習志野市立第三中学校・第3学年)
団 員	ばん 伴	ゆ わ 悠 羽	(習志野市立第四中学校・第3学年)
団 員	みや した 宮 下	かん じ 寛 司	(習志野市立第五中学校・第3学年)
団 員	こん どう 近 藤	しゅん すけ 駿 介	(習志野市立第六中学校・第3学年)
団 員	こ すげ 小 菅	ま や 茉 弥	(習志野市立第七中学校・第2学年)
団 員	き どう 木 堂	あ いり 亜衣理	(県立実籾高等学校・第3学年)
団 員	なか むら 中 村	ゆ か 由 佳	(東邦大学付属東邦高等学校・第1学年)
同行職員	みどり かわ 緑 川	しず え 静 栄	(協働政策課)

【原爆ドーム前にて】

上段（左から）

平川団員
近藤団員
各務団員
宮下団員
中村団員
木堂団員
田中柗輔団員



下段（左から）

伴団員
田中ちより団員
齋藤団長
小菅団員

令和6年度習志野市平和市民代表団活動の記録



5月20日（月）結団式及び第1回事前学習会

- 市長、教育長との歓談
- 派遣事業の概要説明
 - ・派遣に伴う活動等の確認
 - ・学習テーマの決定

7月19日（金）第2回事前学習会

- 事前学習
 - ・被爆体験講話
 - ・学習テーマの発表
 - ・視聴した証言ビデオのレポート発表
 - ・派遣に向けて抱負や思い等の発表
 - ・千羽鶴作成



7月25日（木）

平和の広場清掃活動及び第3回事前学習会

- 清掃ボランティアに参加
- 事前学習
 - ・平和な未来をつくるために
私たちは何ができるのか発表
 - ・派遣日程等の最終確認



8月5日（月）～8月7日（水） 広島市訪問

- 平和記念式典
（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）に参列
- ヒロシマ青少年平和の集いに参加
- 平和関連施設の見学

8月9日（金）習志野市平和祈念式典（長崎）

- 習志野市原爆死没者慰霊および平和祈念式典に参列

8月26日（月）報告会

- 平和な未来をつくるために
私たちは何ができるのか発表
- 今後の取り組みについて



11月9日（土）・10日（日）食とくらしの祭典

- 平和基金募金活動
- 広島派遣報告発表（パネル展示）

3月5日（水）解団式

事前学習会



－派遣への準備－

◎第1回事前学習会

派遣の概要を説明し、広島について学ぶため「学習テーマ」を決めました。

◎第2回事前学習会

団員たちはそれぞれ調べたことを発表し、知識を深めました。

◎第3回事前学習会

平和な未来をつくるために私たちは何ができるのか話し合いました。

『抱負』

派遣に向けて、各自の思いを発表しました。

齋藤 路子 団長

私の母は、社会人になった年の昭和20年8月9日、18歳で職場疎開中に長崎の長崎高等商業学校（旧制専門学校）現在の長崎大学経済学部で被爆しました。

戦後、母の両親の故郷である鹿児島に帰り結婚、子どもを4人もうけましたが、ずっと原爆症に苦しみました。体が思うように動かず農作業が出来ない母に、原爆症のことを知る由もない近所の人たちは「なまけもの」と言い苦しみ続けました。

そのような母でしたが、私の進学に合わせて川崎に移り住み「被爆者の会」に出会った母は、被爆者の救援運動に取り組み、病を押しつけて国会前の抗議活動にも参加していたようです。

高校生への語り部や、被爆体験証言集などに積極的に取り組みましたが、生涯を病との闘いに費やし亡くなりました。結局、被爆体験を聞けないままのお別れでした。

今でも、戦争を行っている国々があります。被爆者の会等で被爆体験談を聞かせていただくと、高齢となり病と闘いながらも、命を削るような思いで体験談を話してくださります。一瞬で黄泉の国になってしまう核兵器は絶対に使ってはいけないとの思いが伝わってきます。

今回、昨年に引き続きいただいた機会を活かし、「習志野市平和市民代表団」の一員として、参加なさる生徒さんたちと現地に赴き原爆の遺構や展示品から当時の人々の遺品等を見学し、どうしたら核兵器の廃絶をすることができるのか、当時の悲惨な惨状について苦しかったであろう思い、戦後の暮らしなどについても語り合いたいと思います。

そして、先人たちが作り上げてくださった平和な日本をどうしたら守っていけるか、若い皆さんに広島派遣で自分の心の中に残ったことを自分の言葉で伝えていっていただきたいと思います。



田中 柁輔 団員

この度、習志野市平和市民代表団として広島派遣に参加できることが非常に貴重な機会であり、責任も大きいものだと感じております。広島は世界で最初に核兵器が実戦使用された場所です。原子力爆弾の被害として一番に連想したのは“放射線”の被害です。原子力爆弾は爆発と共に多量の放射線を放出し、人体に様々な影響を及ぼし、最悪の場合は死に至らしめました。爆発の被害のみならず人体を蝕まれながら、苦しみながら亡くなっていった人々のことを想像すると心が痛みます。



終戦後、日本は高度経済成長期に突入り、先進国の仲間入りを果たしました。今、私たちは当たり前のように平和な生活を送れています。しかし、このあたり前は、戦争を経験した被害者、当事者、様々な人の平和への願いが形作られたものだと思います。平和な世の中に生まれた私たちがしていかなければならないことは“伝えること”、そして“知ること”です。

まず戦争の被害、そして日本には原子力爆弾が投下されたという事実とその詳細を理解することが重要だと思います。日本は敗戦国で被害者のような印象を国民なら受けるかもしれませんが、かつての日本人も外国のだれかの家族、故郷等、だれかにとっての大事なものを奪っています。戦争を行っている国々はお互いに大切なものを奪いあっているのです。原子力爆弾がどれだけの被害を及ぼすのか、爆発した後の放射線被害、そして被爆者の苦しみ、それらを理解することが必要です。

そして原爆が投下された国、そしてかつて戦争に参加した国として、その凄惨な状況や苦しみを私たちは後世に伝えていかなければいけません。今回の派遣において見て、聞いて、感じたことを一人でも多くの人に伝えることが使命であることを常に思いながら研修に参加したいと思います。

平川 智規 団員

現在、日本は戦争に巻き込まれることのない平和な国です。しかし、海外に目を向けてみると、ウクライナやガザ地区など実際に戦争が起きており、被害にあわれている人々がいます。

私は3年生の歴史の授業で、初めて戦争の恐ろしさを感じました。戦争は、今の私には、何もわかりません。しかし、戦争は残酷的で醜く、二度と起こしてはいけないことだと、聞いたことがありました。それは、終戦から今に至るまでたくさんの人が語り繋いでくれた成果だと思います。



原爆が広島と長崎に落とされてから、長い年月が経ちます。最近では、テレビなどで原爆の悲惨さを伝える番組や報道が少なくなってきたと思います。今回の貴重な機会を通して、戦争や原爆の恐ろしさ、悲惨さを改めて記憶できるようにするとともに、もっと色々な人達にも知ってもらい、それぞれの考え方を共有できるように学んでいきたいと思っています。

このような戦争が、二度と起きないようにするために、今回の派遣で自分が体験したことや学んだこと、そして「平和」のありがたさを、一人でも多くの人々に伝える事で、「平和」への思いを繋いでいけたらと思います。

田中 ちより 団員

今、当時の様子を知っている人はどのくらいいるのでしょうか。授業で習っただけの人やその出来事だけを知っている人も決して少なくはないと思います。そのなかで、このように現地に行って学ばせていただけることは、私の人生においてとても良い経験になると思いました。なにより私からさらに現地で学んだことを多くの人に広めていきたいと思いました。原子爆弾というとても惨い兵器によって失われた多くの命、傷ついたたくさんの人たちについて知り、戦争の有害さや今ある平和の大切さを学ぶことで、よりよい未来につながると私は考えます。被爆した方々の話を心に刻み、現地の悲惨さを知り、語り継ぐことで新たな戦争が起こらないかもしれない、そんな可能性があるのならばそれに乗らない選択肢はないと考えます。原爆という兵器はボタン一つで操ることができたものであり、言い換えればボタン一つで多くの人の生活、人生を奪うことができたということです。そんなボタンが今もあっていいのでしょうか。そして誰がそんなボタンを望むのでしょうか。他にも多くの原爆への思いはありますが、一番軸にある考えは、「永遠に平和であってほしい」です。平和について考えること自体は少なくないですが、唯一の被爆国である日本の広島のことを考えると「同じことは二度と起きてほしくない。他の国でも、日本でも。」と、たくさんの平和への願いが溢れてきます。それは私だけでなく、他の団員さんや、被爆者の方も同じだと思います。多くの人と一緒に平和について考え、平和な未来を築いていきたいと思えます。



各務 紘斗 団員

今回、習志野市平和市民代表団の一員として広島派遣に参加できることを、とても嬉しく思っています。私は広島に行きたいとずっと思っていました。そのため今回の広島派遣を通じて、現地ではわからないことをたくさん学び、平和についてもう一度考え直す機会にしたいと思えます。

私たちは戦争を体験していないため、どれだけ過酷でつらかったかは想像するしかありません。しかし、当時のことについての資料を見たり、実際に戦争を体験した方などの話を聞くことで、今度は私たちが次の世代に戦争について伝えていくことができます。そして、その内容を役立てることで、平和な世界をつくることにつながっていくと私は思えます。

現在も世界各地で争いが絶えませんが、戦争を経験した国であるからこそ、日本から世界に広げられることはたくさんあります。どうすることがこれからの平和につながるか、争いを生まないことにつながるか、私は今はわかりません。しかし広島派遣から帰って来たときにはまわりの友達や家族にどうすることが大切かをはっきりと伝えられるようになっていきたいです。

習志野市民の代表であることを自覚し、新たな知識をたくさん得られるよう、積極的に活動に参加していきます。



伴 悠羽 団員

最近歴史の授業で広島・長崎に原子爆弾が投下された第二次世界大戦について学びました。それは、あまりにも残酷で戦争を経験していない私にとっては想像できませんでした。

なので、実際に被爆地に行った時には、よりくわしく学びたいと思います。

世界には、まだ戦争をしている国や地域があります。そのようなニュースをテレビで見るたび、もし日本も戦争に巻き込まれたら、また第二次世界大戦のような戦争が起こったらと、とても怖くなります。

どうすれば戦争を防げるのか、どうすれば世界で戦争が起らなくなるのかについても深く考え、学びたいです。



宮下 寛司 団員

まず今回、平和市民代表団として活動できることを嬉しく思います。一生に一度あるかないかの貴重な体験なので、文字だけでは学べない体験をしたいと思っています。

戦争については、小さい頃から多く聞かされて育ってきました。ただ、それらはカメラの向こう側、遠い昔に起こった場所だと思い、他人事だと思って育ってきました。ですが、昨今の世界情勢を見ると、そんな寝ぼけたことは言っていられなくなりました。

自分たちの思いどおりにならないと、過激なコメントを発表し、武力で脅しをかける。大昔から繰り返してきた戦争から、なにも学んでいない、なにも感じていない。戦争はやってはいけない、という当たり前のことを世界に伝えることが式典の目的の一つだと思います。

日本は戦争の旨味と痛みを経験から学んでいます。痛みのほうが格段に大きいことも。先の大戦からたった79年で、日本は大きく成長し、戦争の無い平和な時代を迎え、今は戦争の記憶を伝える側に回っています。

平和な時代を続けるためにはどうすれば良いのか、世界が平和な時代を迎えるためにはどうするか、考えたいと思います。よろしくお願いします。



近藤 駿介 団員

今回、習志野市平和市民代表団の一員として、広島派遣に参加する機会をいただけて、とてもありがたく感じています。

私は戦争について、ニュースなどで見る程度で、自分から調べたりしたことはありませんでした。ですが、このような貴重な機会をいただけたので、しっかりと事前学習をし、広島で体験し、まとめ、多くのことをたくさんの人へ発信できたらと思います。

わずかな事前学習しかしていないのですが、戦争・原爆はこんなにも悲惨で恐ろしいものであるということを知りました。

また、平和啓発のためには、被爆証言ビデオの方々のように、真剣な目で伝えるという姿勢を見せることが大事だと感じました。

なので、たくさんの物事に対して目を向け、しっかりと目に焼き付け、心で聴き、アウトプットしたいと思います。こんなにも貴重な機会はあまり無いと思うので、しっかりとした姿勢で臨んでいきたいと思います！よろしくをお願いします。



小菅 茉弥 団員

今回、習志野市平和市民代表団の一員として、広島派遣に参加できることを大変うれしく思います。これまでに戦争や原爆について学ぶ機会が数回しかなかったので、これを機に、実際に広島へ行き、自分なりに様々なものを感じ取っていききたいと思います。

私たちは今、当たり前のようにある「平和」のなかで何気なく生活していますが、それは悲惨な過去があったからこそ成り立っているのだと私は思います。戦争・原爆の悲惨さ、残酷さを経験された方々の話を耳だけではなく、目や心でも聞いたり、当時の記録をみたりすることで、平和の尊さを伝え続けていきたいです。

日本は世界唯一の被爆国として平和を呼びかけ、そして伝え続ける必要があると思います。学校や習志野市の代表という自覚をもって、これから先も戦争や原爆が落とされるということが無く、平和を守り続けるために、私ができることを精一杯頑張りたいと思います。よろしくをお願いします。



木堂 亜衣理 団員

今回、習志野市平和市民代表団の高校生代表として平和祈念式典に参列できること、とても嬉しく思います。広島への派遣に際し、私の胸にはさまざまな思いが渦巻いています。この地は、歴史に刻まれた悲劇の地であり、同時に平和への強いメッセージを発信し続ける場所でもあります。

原爆によってもたらされた惨状を直接目の当たりにし、その痛ましさを実感することが重要だと感じています。資料館や記念碑を訪れることで、多くの命が一瞬にして奪われ、その後も多くの人々が苦しんだ事実を心に刻みます。これを通じて、戦争がもたらす悲劇と、その中で生き抜いた人々の強さを学びたいと思います。

広島復興と平和への取り組みに触れることで、私自身が平和を築くために何ができるのかを考えようと思います。



中村 由佳 団員

第二次世界大戦での広島・長崎に落ちた原爆は膨大な被害をもたらしました。被爆し即死してしまった人以外にも、数ヶ月、数年後に放射線障害などで亡くなってしまった人は沢山います。また現在では減ってきましたが、「被爆者の子どもには障害がある可能性が高い」などと言われ、他の県の人に結婚をことわられたり、沢山の差別を受けました。私はこのようなことは今後、日本だけでなく全世界で決して起きてはならないことだと思っています。

私がこの広島派遣に応募した理由は、この他にもあります。

それは被爆者を敬い戦争の恐ろしさを教えてくれた感謝を伝えたいからです。もし原爆投下がされていなかったら戦争はもっと長引き軍隊や燃料が尽きるまで行われていたと思います。そしたらもっと膨大な被害がでていただろうし、今の日本はすべてアメリカの支配下だったかもしれません。

この派遣を通して少しでも戦争をなくす力になりたいと思っています。



『被爆者の声』を聞く

インターネット上で公開されている『被爆者の声』より、各自で被爆証言映像を視聴し、被爆者の方の被爆証言内容と感想を事前学習会で発表しました。

齋藤 路子 団長

証言者 岡田 恵美子 さん (被爆時8歳)

証言内容

1937年(昭和12年)生まれ。被爆当時は、小学校3年生(8歳)。爆心地から2.8km離れた自宅で2人の弟と飛行機の爆音を聞いて手を振っていた時に被爆。姉は、12歳で被爆し逝去。原爆投下後広島は、三日三晩燃え続けた。多くの負傷した人々は、7本の川に水を求めて飛び込み瀬戸内海に流れていった。そして原爆で生き残った約6,000人の孤児たちは、悪いことをしなければ生きていけなかった。火傷をした子供たちへの差別があり、大人は、結婚にも影響した。12年後に自分の病名が再生不良貧血症だとわかり、12年前広島に原子爆弾というものが落ちたことを知った。それまでは焼夷弾のことしか知らなかった。

【補足】

その後、原爆の勉強をしてきた岡田さんは、広島平和記念資料館の被爆体験証言者として活動され、チェルノブイリ原発事故の後にキエフというところに行き、キエフの小学校の全校生徒が甲状腺がんになっているのを知り、そして、核保有国のインド、パキスタンでは、路上生活の子供やエイズにかかっている子もいた。子どもたちの犠牲を亡くしたい、普通の生活をさせたいと核廃絶のために証言を続けていた。70周年の時にオスロであったノーベル平和賞の授賞式に原爆被爆者として招かれた。その時に被爆証言を聞いた、ノルウエーのソルベルグ首相から、「過去の戦争で原爆を使ったのが一番の汚点だ。次に原爆を使ったら地球は破滅するじゃない」という言葉をいただいた。

感想

戦争中の小学校の運動場は、野菜を作るところだと思っていた。運動会、鬼ごっこ、スポーツした経験もなかったという。そして戦後、生き残った子供たちの生き様は言葉にならない。学童疎開から家族に会える、団らんがあると帰ってきたら、焼け野原で家もなく家族も亡くなっている。岡田さんは、被爆者の怪我や火傷で亡くなった方々と一緒にいることが多かった。気持ち悪いとか何も感じなかったと声を震わせながらの証言でした。私には、想像を絶するものです。

被爆証言者になられてから、核保有国等を回り、被爆証言を続けて世界中の子供たちが犠牲になる戦争を亡くしたい、核を使ってはいけない、と長い間活動を続けました。「日本の今の平和がいつまでも続くように、普通の生活をして、特別じゃなくていい、命を引き継いでほしい」岡田さんは、人生の最後まで、子どもたちの平和を望み活動されました。今後は、私達が遺志を継いで行くために学び続けていかなければと思いました。

証言者 安部 初子 さん (被爆時24歳)

証言内容

自分の家だけに爆弾が落ちたと当初は思っていた。今にも崩れ落ちそうな家から、裸足で子どもを抱いて河原に向かった。どこを見ても燃えている状態であった。そこで自分を呼ぶ声を聞いた。そこには身体中の皮や服がボロボロになった主人がいた。30分前に一緒にいた夫婦がお互いの見分けがつかないような状態だった。周りは怪我人や死人で溢れ、生き地獄のようだった。避難場所に向かったが、満足な治療も受けることができなかった。

感想

証言ビデオを見て印象的な部分が“生き地獄のようだった”という言葉です。原爆がどれほどの恐ろしさを持っているのか、それは地獄という言葉に詰まっていると感じました。

ビデオの中で初子さんは、30分前に一緒にいた主人ともお互いに自己紹介をしなければ判別がつかないような状態だったと言っていました。衣服や身体の皮がはがれ落ちている様は想像するだけでとても恐ろしいことだと思います。周りにはもっと悪い状況の人や、死者で溢れており、自分のことで精一杯だったと感じました。特に初子さんはお子さんもいる状況で逃げ延びてきた為、その苦痛や苦労は想像を絶するものだと思います。身体中がボロボロの状態では食べ物を満腹に食べることも出来ず、ただ身体を休めることも出来ませんでした。

自分だったらどうしたか想像してみました。とても生き延びることはできなかつたろうと思いました。それでも初子さん家族は諦めず、必死に次へ次へと向かっていく様子を感じることが出来ました。このような状況をどれだけの人間が想像出来ているのでしょうか。

世界情勢は未だ不安定ですが、原爆が投下された国だからこそ平和を願い、何が最善かを1人1人が考えていく必要があると動画を視聴して強く思いました。

平川 智規 団員

証言者 松田 守隆 さん (被爆時9歳)

証言内容

疎開先の緑井国民学校四年生として通っていた松田守隆さんは、朝礼が終わった後に自分達の教室の扉を開いた瞬間に被爆。カメラのフラッシュのような光と窓ガラスがつぶてのように飛んできた。その後、一度避難をしたが、父の消息を確認するために広島に戻った。そこではゴロゴロと黒焦げの死体が転がっていた。そして、崩壊した家からは、ただ白く人の形をした父の骨が見つかった。

感想

松田さんの悲惨な体験の証言から、改めて原爆の悲惨さ、残酷さを強く感じました。特に印象に残ったのは、原爆が落ちた後に父を探しに広島へ戻った時の話です。形だけを残した電車が線路の上にポツンとあるのが見えるだけで道路には黒焦げの死体や弁当箱がゴロゴロと転がっているという状態から、原爆の被害の大きさが伝わってきました。また、松田さんからは「原爆を落とすように誘導したのは日本なのに、日本政府は何の責任も感じず、国民に対しての謝罪も一言も聞いた事が無い」と、戦争をしたことに対する強い憤りを感じました。そして、核兵器保有国の青年たちへ「同じ人間の頭上に核を使えるのか聞きたい」と、同じような悲惨な事が起こらないように強く願っていることが伝わりました。

今回の松田さんのような証言をしっかりと活かし、広島派遣を通じて、自分に何ができるのか、これからどうしていけば良いのかを改めて考えていきたいです。

田中 ちより 団員

証言者 銀林 美恵子 さん (被爆時17歳)

証言内容

1.7キロ離れた地点での被爆。学校にいたら外が光り、校舎が崩れた。足を負傷しながら兵隊に言われ御幸橋に向かう。御幸橋ではトラックが来て宇品へ送ってくれた。しかし、その中では重度のやけどを負った人たちがおり、肩が触れ合っただけで相手の皮膚が自分に張り付くほど。宇品で簡易的な治療を受けた。同じようなけが人も一晩もしたら半分は亡くなった。証言もそうだが、芸術なども通して若い世代にこのことが伝わってほしい。

感想

私がこのビデオを視聴した理由は、「触れると皮膚が付いてきちゃう」という題名でどういうことか理解することができなかつたからです。今までの知識では聞いたこともないほどの惨状を聞いて私は伝えることの大切さを学びました。学校でも原爆などについては学びますが、先生や教科書からはわからない当時の様子も当事者から聞くと言葉の重みが増し、本当にあったことなのだといより実感が湧きました。このように後世にも感じてもらえると、2度と同じことも起こらないのだろうと考え、私が聞いたことを子孫や他の人に伝えていきたいと心から思いました。今、私が平和に生きていることがとても貴重だ、と実感すると同時に、絶対にこのことを貴重ではなく当たり前にしなくてはならないと私は感じました。現在も様々なところで紛争は起こっていて、兵器の開発もされていますが、今一度世界にも日本中にも唯一の被爆国日本の被爆者の声が届いてほしいと切に願いました。

各務 紘斗 団員

証言者 篠原 博 さん (被爆時14歳)

証言内容

当時中学2年生だった山本さんは、爆心地から2.5キロメートル離れた東練兵場で被ばくした。8月6日は2年生が市街地にある学校へ行くはずだったが、草刈りをする事になり東練兵場に向かったことで助かった。B29が昼間にたった3機で飛んできたため偵察だと思っていた。しかし広島上空を通過したところで反転し、おかしいと思った瞬間、原爆が破裂した。山本さんは強烈な音と熱風で草原に吹き飛ばされた。その後起き上がると、火の玉が盛り上がっているのが見えた。

感想

私は山本さんの証言ビデオを見て、原爆の恐ろしさを改めて感じました。東練兵場にいた2年生は助かりましたが、学校にいた1年生321人が犠牲になったそうです。たった1つの爆弾で、その一瞬でこれだけ多くの人々の命を奪った原爆は本当に恐ろしいものだと思います。何十年も前の出来事なのに今でもはっきり覚えているほど当時の衝撃が大きかったのだと思います。

また原爆が投下される前まで当たり前のように普通の生活をしていたたくさんの人々の命が失われたこの出来事は実際に体験された方、そして私たちの世代を通じて次に繋げていかなければならないと思いました。私は実際に原爆を体験したわけではありませんが、絶対にもう二度と繰り返してはいけない出来事であることはわかります。

今なお世界各地では争いが絶えませんが、未来を変えることはできます。私たちのこれからの活動などを通じて、世界平和に少しでも近づけていきたいです。

伴 悠羽 団員

証言者 上野 栄子 さん (被爆時19歳)

証言内容

市役所で働いていた上野さんは警戒警報が解除された時、外に出ようとしたら原爆が投下された。血を流しながら、市役所に避難。水不足で、不衛生にも黒い雨を飲むしかなかった。上野さんに助けを求めた中学生は次の日死んでしまっていた。市役所の中でガラスが飛び散る。→まだ上野さんの体に残っている。

感想

被害は原子爆弾が投下された時だけだと思っていました。実際は投下された後にも食や水不足で苦しい生活を送る人が大勢いました。生きるために黒い雨を飲むなんて考えられませんでした。上野さんに助けを求めた中学生の話もとても悲しい気持ちになりました。自分のことで精一杯になれば他人を助ける余裕なんてできないはずです。上野さんが悪いわけでもないのに上野さんは罪悪感を感じて泣いている姿を見て、もっと胸が痛みました。もう、このような出来事は二度と起こってほしくないと思いました。

宮下 寛司 団員

証言者 畑谷 由江 さん (被爆時7歳)

証言内容

8月6日朝、友達のユキエちゃんの家遊びに行ったところ、玄関先で被爆。爆風によりおそらく十数メートル吹き飛ばされ、ほら穴のような場所に入ってしまった。ユキエちゃんを助けたかったが助けられず、その後も水を求めて川に飛び込んだ人々の凄惨な遺体を見た。8月6日になると毎年この光景が蘇ってくる。

感想

大変生々しく、どれだけ酷かったか伝わってきた。水を飲んで人が死んでいく、川には水を求めて飛び込んだ人たちの頭が浮いている。まさに地獄。そんな光景、今となっては全く想像ができない。目の前に助けたい人がいるのに、自分は逃げないといけない、つまりその人は見殺しにしないといけない。とてもこの世とは思えない選択を、わずか7歳の少女がしなくてはならなかった。

近藤 駿介 団員

証言者 銀林 美恵子 さん (被爆時17歳)

証言内容

千田町の女子高等師範学校の教室内で被爆。ピカッと光が見えた次の瞬間、校舎が次々と倒れその下敷きとなり、足から下を大怪我。元安川へ避難した。避難した人は皆ナイルの手袋を垂らしたような状態や、顔から血を出している状態の人がたくさんいた。その後、御幸橋へ避難しトラックに乗せてもらい移動し、麻酔消毒無しで足を8針縫ってもらった。助けてもらった半分の人はその年に亡くなってしまった。

感想

このビデオの見出しに『触れると皮膚が付いてきちゃう』と書いてあり、こんなにも恐ろしいことが書けてしまう。そんな経験をされたら想像しただけで、とても胸が辛くなりました。被爆者の銀林さんは口角をあげ証言していました。実際、戦争・原爆と聞くだけでも恐ろしく感じてしまう方もいると思います。ですが、銀林さんのように、辛い経験をした方が口角をあげながら、真剣に証言をする。という姿勢に戦争をしない！原爆は恐ろしい！というのがとても伝わり、本当に心から感銘を受けました。

私たち若い世代は経験したことのない内容ですが、改めてしっかりと自分だったら、というのを真剣に考えて周り共有するなどして、原爆の悲惨さや辛さを心に留めながら、そして、継承していきながら、生きていかなければならないと思いました。

小菅 茉弥 団員

証言者 横山 弘 さん (被爆時10歳)

証言内容

原爆が落ちる少し前にみんなで橋を渡ろうとしていた。横山さんは橋を渡る手前で具合が悪くなり、物陰に座っていた。その直後に原爆が落ち、顔の左側と頭が血だらけになったが助かった。被爆後は吐いたり、鼻血が出たりする生活が50年くらい続き、時には高熱を出して倒れることが何回かあった。

感想

私は横山さんの話を通して、原爆はとても恐ろしいものだと感じました。「橋を渡るか、渡らないか。」たったそれだけの事で生死が決まってしまうとは本当に衝撃でした。生き抜けたことはよかったけれど、被爆後に鼻血が50年も続いたのは、とても大変だったと思いました。原爆が落ちた後も苦しい時間を過ごしている人がいることを知り、戦争は本当に悲しみ・苦しみしかうまないものだと感じました。

木堂 亜衣理 団員

証言者 鈴木 操 さん (被爆時8歳)

証言内容

1945年8月6日、広島市に原子爆弾が投下されました。8歳だった鈴木操さんは、その日を鮮明に覚えています。彼女は当時、小学校に通っていました。爆弾が投下された瞬間、強烈な閃光とともに巨大な爆風が街を襲いました。操さんは咄嗟に床に伏せましたが、窓ガラスが割れて飛び散り、彼女の腕や顔に傷を負いました。目の前が一瞬で真っ白になり、何が起きたのか理解できませんでした。

周りの友達も泣き叫んでいました。校舎は崩れ、煙が立ち上っていました。

感想

鈴木操さんの証言は、原子爆弾の恐怖とその悲惨な影響を如実に物語っています。わずか8歳という幼い年齢で、計り知れない恐怖と悲しみを経験した彼女の強さに心を打たれます。また、彼女が戦後もその経験を語り継ぐことで、平和の大切さを次の世代に伝えようとしている姿勢には真剣さが伝わります。

このような証言は、過去の悲劇を二度と繰り返さないためにも、非常に重要なものであると感じました。彼女の証言を通じて、戦争の悲惨さと平和の尊さを再認識し、二度と同じ過ちを繰り返さないようにすることの重要性があると考えました。

証言者 野口 和代 さん (被爆時17歳)

証言内容

自分の部屋に学校から帰ってきて座った瞬間に原爆がおちた。生き埋めにあい、救助してもらうときにまわりのガラスのかけらなどで体をさかれ血だらけになり、病院へ運ばれた。男・女もわからないくらいひどいやけどの人もたくさんいた。入院中に看護師さんがジュースをくれた。退院後帰郷のため広島駅へ行ったが、何がなんだかわからないくらい家が崩壊し鉄道も沢山とまっていた。30分くらいかけて鉄道が運行している駅まで歩いた。その時、道で地元の人達が配ってくれたおにぎりがとてもうれしかった。

感想

私は戦争を経験したこともないし、経験した人の話、ましてや被爆者の話など聞いたことがありませんでした。このビデオを見ていままでも以上に被爆のつらさ、どのような状況だったのかがわかりました。和代さんが言っていましたが「2ヶ月間くらいのあいだ体からガラス片が出てきた」という言葉におどろきました。そんなにも体の奥深くに飛んできたガラス片がはいりこんでしまうんだなと思い、原爆の威力の強さがわかりました。

現在戦争を経験した人はかなり減ってしまい、原爆の恐ろしさを知らない人が多いです。その結果また戦争をしてもいいと思っている人が増えてきています。なのでまだ被爆者や戦争経験者がいるうちに体験談などを沢山聞き、後世に恐ろしさを伝え、二度と起こることがないようにするべきだと思います。

『学習レポート』

中学生・高校生の団員は各自でテーマを選択し、レポートの作成・発表を行いました。

習志野市立第一中学校 3年 平川 智規

広島平和記念式典について

正式名称：広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式

日時：令和6年8月6日（火） 午前8時開式、同8時50分閉式

場所：平和記念公園

規模：参列者席(メイン会場)に約7,000席設置

広島国際会議場(サブ会場)フェニックスホール及びヒマワリに約2,200席設置(式典同時中継)

次第：1. 開式

2. 原爆死没者名簿奉納

3. 式辞

4. 献花

5. 黙とう・平和の鐘

6. 平和宣言

8. 平和への誓い

9. あいさつ

10. ひろしま平和の歌（合唱）

11. 閉式



概要：本式典は、平和記念公園の原爆死没者慰霊碑（広島平和都市記念碑）前において、原爆死没者の遺族をはじめとする市民参加のもとで举行されます。1947年に広島平和祭として第1回式典が催され、当時の広島市長である浜井信三さんが平和宣言を行いました。毎年歴代広島市長によって行われる平和宣言は、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を訴え続けているものであり、世界各国にも広く知られています。



午前8時から始まり、原爆が投下された午前8時15分に平和の鐘とサイレンを鳴らし、式典会場のみならず、広島県全体で原爆死没者の冥福と恒久平和の実現を祈り、1分間の黙祷を行います。また、市内を走行中のバスや広島電鉄の車両もこの時間には停車し、乗客も黙祷を行います。そのあとに広島市長が平和宣言、子供による平和への誓いを行います。

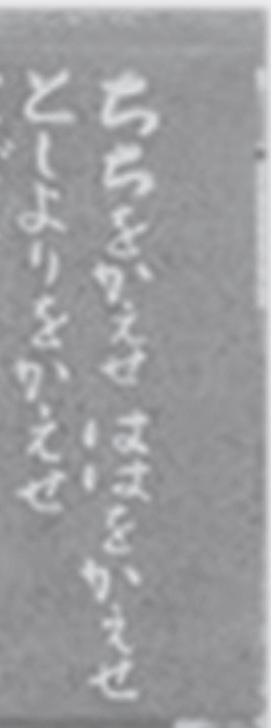
この式典は、原爆を投下したアメリカ合衆国及びアメリカ軍に対する反米感情を訴えるものではなく、恩讐を超えた世界の恒久平和への希求であるとされています。破壊のための核兵器使用の危険性がある以上、核兵器の存在を認めず廃絶を求めることは、世界最初の被爆地としての責務であると、歴代の広島市長は平和宣言の中で訴えています。

アオギリと峠三吉詩碑



アオギリとは、
原爆投下の三キロ地点にあり、大きく
原爆の影響を受けた一本の木です。
当時は木の半分ほども抉れ、枯れ木
同然だったのが、翌年の春には
青々と新芽が実り、
暗い状態だった人々に勇気をも
たらした存在であったそうです。
現在では種も実り様々なところへ
平和の象徴として贈られ
育てられているようです。

峠三吉詩碑とは、被爆した
峠 三吉
という詩人が原爆後に遺した詩の一つ
です。
ひらがなのみの印象に残る文章と、
身の周りのすべてを失った悲しみを
ひしひしと感じるこの文章は、世界中
に原爆の悲惨さと、平和の大切さを語
る文章だったそうです。
峠さんは、36歳という若さで広島
の療養所で亡くなったそうです。



島病院について

・ 島病院とは

1933年広島市細工町29-2(現在の中区大手町1丁目5-25)に外科病院として開院した。

当時の最先端の医療設備を備え、診察室・手術室、さらに当時としては珍しい洋室・豪華な特別室もあった。

・ 原爆について

1945年8月6日午前8時15分、広島市に投下された原子爆弾の爆心地となった。

病院は柱を残して全壊し、看護師や患者約80人が犠牲になった。院長の島薫はその日、世羅町に出張診療に出かけていたが「広島全壊」の知らせを受けその日の夜に島病院へ戻った。その際の状況は、島薫の回想録でこう述べられている。

「玄関の両側の2本のコンクリートの柱以外には何物も残っていなかった。(略)病院のまわりの街路に多くの人々が死んでいた。しかし私がだれと分かったのはただ一人であった。」

現在島内科医院には爆心地を示すモニュメントが設置されている。

平和の灯について

広島市の平和記念公園にある平和の灯は、東京大学教授丹下健三氏によって設計されたものです。台座は手首を合わせ、手のひらを大空に広げた形を表現しています。水を求めて死んでいった被爆者たちの霊を慰め、世界の恒久的な平和を祈るものです。

1964年8月1日に点火されて以来ずっと燃え続けています。この灯は核兵器がこの地球上からなくなる日まで燃やし続けよう、という核兵器廃絶の悲願の象徴になっているのです。

私たちの国は唯一の被爆国です。核の恐ろしさを世界に発信していかなければなりません。平和を人任せにせず、一人ひとりが愛を持って行動していかなければなりません。そして、近い未来にこの灯が完全に消えることを心から願います

広島に投下された原子爆弾について

1945年8月6日午前8時15分ごろ、現在の原爆ドームから160mほど離れた上空600mで炸裂した。投下から1分も経たずに中心温度が100万度に達する火球を作り、投下された付近は生物や建物といったあらゆるものが一瞬にして「消滅」した。

影響は爆発のみではなく、爆発時に放出される大量の放射線もあった。投下後も黒い雨などといった影響が相次いだ。

内容	
概要	米軍 B-29 爆撃機エノラ・ゲイにより投下。長さは3m、重さは4t。
死傷者	炸裂場所から半径1.2kmのところでは、50%以上がその日のうちに死亡。 1945年末までに、原爆により約14万人が亡くなったとされる。
通称	広島は「リトルボーイ」。長崎は「ファットマン」。
その他	原爆投下直後は水を欲しがる人が多かったが、 そこで水をあげると死んでしまう、という事例があったそうだ。 水をあげるとそこで安心し、緊張の糸が切れてしまうのが原因とされる。

世界のどこを見ても、核兵器が実戦利用されたのは日本だけである。この事実をどう活かすかが大切だ。

～広島平和記念資料館について～

広島平和記念資料館とは？

被爆資料や遺品、証言などを通じて、世界の人々に核兵器の恐怖や非人道性を伝え、ノーモア・ヒロシマと訴える施設。

特徴は？

本館は **2006/7/5** 日本の戦後建築物としては初めて、国の重要文化財に登録された。

東館は主役である本館に対して、脇役の関係を持っており、本館に対して控えめなデザインで設計された。また、東館は、本館と渡り廊下で連絡されており、本館を中心にして、国際会議場と左右対称となっている。ゲートとしての本館に対して、東館は地上部分の柱、梁を石貼とし、同じ石貼の自立壁で囲った、やや重厚な建築にして対比させた設計になっている。

開催中の企画展…ともだちの記憶(～2024/9/10)

常設展示…

東館 3階導入展示、本館被爆の実相・ギャラリー、東館 3階核兵器の危険性、東館 2階広島の歩みという順路で見れる。

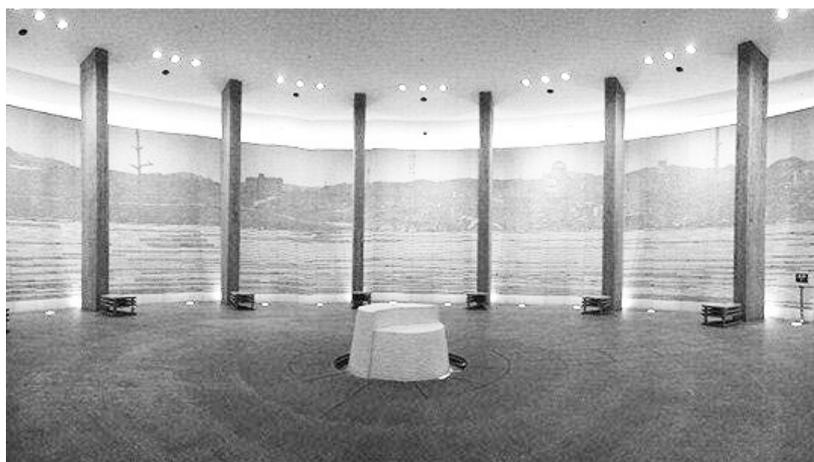
本館では被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真や絵などの資料を展示し、1945/8/6に広島で何が起こったのかを伝える。

東館では核兵器の危険性や被爆前後の広島の世界史について展示しているほか、被爆者証言ビデオを自由に視聴できるコーナーもある。

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館について

【祈念館の趣旨】

国として、原爆死没者の尊い犠牲を銘記し、恒久の平和を祈念するとともに、原爆の惨禍に関する全世界の人々の理解を深め、被爆体験を後代に継承することを目的として、被爆地である広島に設置された施設です。



爆心地から見た被爆後の街並みを表現している平和祈念・死没者追悼空間

【主な事業の紹介】

○原爆死没者の登録

原爆死没者を追悼し、原爆で多くの人々が亡くなった事実を伝えるため、原爆死没者のお名前と遺影（写真）を登録しています。お名前と遺影（写真）は、祈念館で公開するとともに、永久に保存します。

○被爆体験期の収集、朗読会

被爆者が体験した被爆の惨禍と、その体験に基づく平和への思いなどを、国内外の人々、そして次の世代へ伝えていくために、被爆体験記を収集しています。体験記は、公開するとともに、館内の閲覧装置で検索できるようにデータベース化されています。また、ボランティアの方による体験記の朗読会も開催されています。

○企画展

地下1階の「企画展示室」では企画展として、毎年テーマを変えて約30分の映像作品を制作し、大型スクリーンで上映しています。また、タッチパネル端末で、そのテーマに沿った被爆体験記や追悼記を紹介するほか、関連の深い遺品なども展示しています。

今年度のテーマは「暁部隊 劫火へ向カヘリ 一特攻少年兵たちのヒロシマー」です。

※他にも、被爆体験伝承者の派遣、被爆体験期の執筆補助、被爆者証言ビデオの制作、外国語への翻訳、平和学習セミナーなどが行われています。

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館で原爆死没者を追悼し、平和について考えを深めましょう！

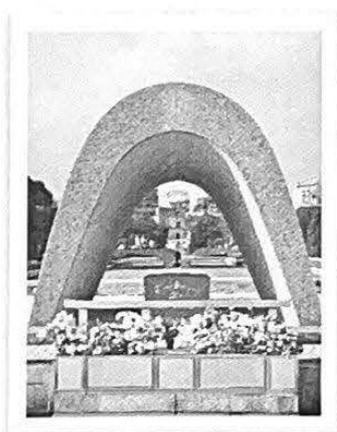
原爆死没者慰霊碑について

【原爆死没者慰霊碑とは】

原爆死没者慰霊碑（公式名：広島平和都市記念碑）は、昭和 20 年（1945 年）8 月 6 日、世界最初の原子爆弾によって壊滅した広島市を平和都市として再建することを念願して設立したもので、ここに眠る人々の霊を雨露から守りたいという気持ちから、埴輪（はにわ）の家型に設計されました。中央の石室には原爆死没者名簿が納められており、石棺の正面には、「安らかに眠って下さい 過ちは繰返させぬから」と刻まれています。この碑文は、すべての人びとが原爆犠牲者の冥福を祈り、戦争という過ちを再び繰り返さないことを誓う言葉であり、過去の悲しみに耐え、憎しみを乗り越えて、全人類の共存と繁栄を願い、真の世界平和の実現を祈念する「ヒロシマの心」が刻まれているものです。

【碑文に込められた思い】

すべての人びとが、原爆犠牲者の冥福を祈り、戦争という過ちを再び繰り返さないことを誓う言葉である。過去の悲しみに耐え、憎しみを乗り越えて、全人類の共存と繁栄を願い、真の世界平和の実現を祈念するヒロシマの心として、「安らかに眠って下さい 過ちは繰返させぬから」と刻まれています。



原爆ドームについて

①被爆前の建物

原爆ドームもとの建物は、チェコ人の建築家ヤン・レツルの設計により

1915年に広島県物産陳列館として、完成しました。建物はれんが造りの3階建てで、正面中央部分は5階建ての階段室その上に楕円形のドームが載せられていました。物産陳列館



は、県内の物産の展示や即売、商工業に関する調査・相談などの業務を行っており、美術展や博覧会などの文化事業の会場としても利用されていました。

その後、広島県立商品陳列所、広島産業奨励館、と名前を変え1944年からは内務省中国四国土木出張所、広島県地方木材株式会社など官公庁等の事務所として使用されました。

②被爆

1945年8月6日午前8時15分、米軍のB29爆撃機が広島中心部の上空約600mで爆発し、爆心地から約160mの位置にあったこの建物は爆風と熱線を浴びて大破し、天井から火を吹いて全焼しました。当時この建物の中にいた職員は全員即死しました。戦後旧産業奨励館の残骸は頂上の円盤鉄骨の形から市民から原爆ドームと呼ばれるようになりました。

③現在

第二次世界大戦の後、原爆ドームは2回の工事を経て原爆当時の悲惨さを今も伝え続けています。ドームを基軸とする平和記念公園には、原爆死亡者慰霊碑をはじめ原爆供養塔などの多くの慰霊碑が設けられていて、年間140万人以上もの人が見学に訪れています。



写真で綴る広島訪問



6:44

JR 津田沼駅発

12:02

JR 広島駅着



13:35

平和記念公園にて千羽鶴献納



市内フィールドワーク（ボランティアガイドによる案内）

ボランティアガイドの山上さんによる説明を受けながら、平和記念公園内を見学しました。

【見学コース】

原爆死没者慰霊碑→平和の灯→原爆の子の像→原爆供養塔
 →韓国人原爆犠牲者慰霊碑→平和の鐘→原爆ドーム→平和の時計塔
 →相生橋→レストハウス（3F）→レストハウス（B1F）
 →国立広島原爆死没者追悼平和祈念館→解散

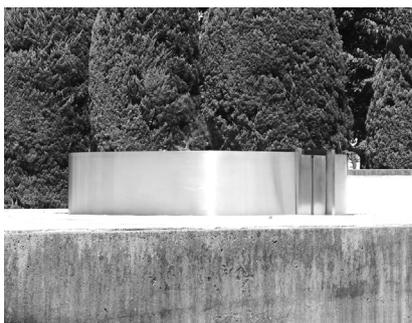
●【原爆死没者慰霊碑】



◎原爆死没者慰霊碑（公式名：広島平和都市記念碑）

平和記念公園の敷地内の、広島平和記念資料館と原爆ドームを結ぶ直線上にある広島市を平和都市として再建することを念願して建てられた慰霊碑です。犠牲者の霊を雨露から守りたいという趣旨から、屋根の部分がはにわの家型をしています。石室には、国内外を問わず、亡くなった原爆被爆者の氏名を記帳した名簿が納められており、令和6年8月6日時点で344,306人の名前が記帳されています。

●【平和の灯】



◎平和の灯

台座は、手首を合わせ、手のひらを大空にひるげた形を表現しており、水を求めてやまなかった犠牲者を慰め、核兵器廃絶と世界恒久平和への願いが込められています。火種は全国12宗派からの「宗教の火」、全国の工場地帯からの「産業の火」、宮島弥山の「消えずの霊火」が用いられています。この火は昭和39年8月1日に点火されて以来ずっと燃え続けており「核兵器が地球上から姿を消す火まで燃やし続けよう」という反核悲願の象徴となっています。

● 【原爆の子の像】



◎原爆の子の像

原爆の影響による白血病で亡くなった佐々木禎子さんがモデルとなった像です。禎子さんの同級生たちが「原爆で亡くなったすべての子どもたちのための慰霊碑をつくろう」と呼びかけ3,200校余りの学校や世界9か国からの支援を受け像が建設されました。その頂上には折鶴を捧げ持つ少女のブロンズ像が立ち、平和な未来への夢を託しています。

● 【原爆供養塔】



◎原爆供養塔

平和公園の北西部にある芝生で覆われた直径16mほどの丸い丘が原爆供養塔です。

この場所は、元慈仙寺の跡地であり、一家全滅で身内の見つからない遺骨や氏名の判明しない約7万人の遺骨が納められています。氏名が判明しても遺族が分からない遺骨の名簿を毎年公開し、現在も遺族を探しています。

● 【韓国人原爆犠牲者慰霊碑】



◎韓国人原爆犠牲者慰霊碑

当時広島市内には数万人の朝鮮人がいて被爆したとされています。「死者の霊は亀の背に乗って昇天する」という故事にならって亀を形どった台座の上に碑柱が立ち、その上に双竜を刻んだ冠が載せられています。

● 【平和の鐘】



◎平和の鐘

反核と恒久平和を願って建設されたもので、平成8年には当時の環境庁が実施した「残したい”日本の音風景100選”」の一つに選ばれています。鐘の表面には「世界は一つ」を象徴する、国境のない世界地図が浮き彫りにされ、撞座（つきざ）には、原水爆禁止の思いをこめた原子力マーク、その反対側には、鐘を撞く人の己の心を写しだす鏡が入れられています。

● 【原爆ドーム】



◎原爆ドーム

広島に投下された原子爆弾の惨禍を今に伝える記念碑です。元は広島県物産陳列館として開館し、原爆投下当時は広島県産業奨励館と呼ばれていました。世界遺産に登録されており「二度と同じような悲劇が起こらないように」との戒めや願いをこめて、特に負の世界遺産と呼ばれています。

● 【平和の時計塔】



◎平和の時計塔

世界人類を象徴した直径2mの球体が、ヒロシマ市民の深い祈りの手と苦難を超え無限に伸びる平和への希望を表した20mもの高さがある鉄柱3本に支えられています。毎朝、原爆投下時刻と同じ8時15分に全世界に向けてチャイムがなります。「平和の鐘」と共に「残したい”日本の音風景100選”」に選ばれています。

●【相生橋】



◎相生橋

昭和9年に橋の中央部分から、慈仙寺の鼻へ橋桁を伸ばし、全国でも珍しいユニークなT字型となった。原爆投下時には、この橋を目標にしたとも言われています。

●【レストハウス】



◎レストハウス

大阪にあった大正屋呉服店の新館として建てられました。当時、珍しく履物のまま入店できたそうです。1943年に太平洋戦争の影響で閉館し、燃料会館となりました。爆心地よりわずか170mという距離にありながら全壊を免れた建物です。

現在は、建設当初の面影はありませんが、地下室だけは被爆当時のままとなっており、実際に見学することができます。

●【国立広島原爆死没者追悼平和祈念館】



◎国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

国として原爆死没者の尊い犠牲を心に刻み、恒久平和を祈念するとともに、原爆の惨禍に関する全世界の人々の理解を深め、被爆体験を後代に継承することを目的として、平成14年8月に開館しました。原爆死没者の名前と遺影(写真)、体験記を収集・公開し、被爆者の「こころとことば」によって原爆被爆の実相を伝え、平和を訴えています。

17:45

19:00

夕飯

宿舎

6:50 宿舎発

7:17 平和記念公園着、公園内にてインタビュー
(詳細は40～42ページをご覧ください。)

8:00 平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）開式



10:50 袋町小学校平和資料館 見学



◎袋町小学校

明治6年開校の市内に古くからある小学校です。広島市への原爆投下により被爆しましたが、焼け残った校舎の一部を平和資料館として活用しています。避難場所や救護所にもなったことから消息などを知らせる多くの「伝言」が壁に残され現存しています。

13:00

平和記念資料館 見学



◎平和記念資料館
被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真などの資料を収集・展示するとともに、
広島市の被爆前後の歩みや核時代の状況などについて紹介しています。

13:20

島病院（爆心地） 見学



◎島病院

人類史上最初に投下された原子爆弾は、この上空約600mで炸裂しました。爆心直下となったこの一帯は約3,000度～4,000度の熱線と爆風や放射線を受け、ほとんどの人々が瞬時にその生命を奪われました。

17:45

夕食

19:45

灯ろう流し（詳細は43ページをご覧ください。）





21 : 15

宿舍